感染症発生動向調査事業

西 彼 保 健 所 感 染 症 情 報

令和７年　第 39 週　令和7年9月22日　～　令和7年9月28日

全数把握対象感染症　発生状況

※報告日週掲載　（県作成速報：診断日週掲載）

一類感染症	報告なし
二類感染症	報告なし
三類感染症	報告なし
四類感染症	報告なし
五類感染症	【第39週】百日咳　患者1名(10代未満・男性)

定点把握の対象となる５類感染症発生状況（定点医療機関当たり患者数）　↑;前週より増加　↑↑;2週連続増加　↑↑↑;急増

疾病名	週別　発生状況		基準値			疾病名	週別　発生状況		基準値		
			警報レベル		注意報レベル				警報レベル		注意報レベル
	38 週	39 週	開始	終息			38 週	39 週	開始	終息	
インフルエンザ定点	2.00	0.80	30	10	10	突発性発しん	0.00	0.00			
COVID-19	7.60	4.40				ヘルパンギーナ	0.00	0.33 ↑	6	2	
急性呼吸器感染症（ARI）	73.40	81.00 ↑				流行性耳下腺炎	0.00	0.67 ↑	6	2	3
ＲＳウイルス感染症	1.00	1.67 ↑				急性出血性結膜炎	0.00	0.00	1	0.1	
咽頭結膜熱	0.33	0.33	3	1		流行性角結膜炎	7.00 警報	5.00 警報	8	4	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.33	3.00 ↑	8	4		細菌性髄膜炎	0.00	0.00			
感染性胃腸炎	5.67	9.00 ↑	20	12		無菌性髄膜炎	0.00	0.00			
水痘	0.33	0.33	2	1	1	マイコプラズマ肺炎	1.00 ↑	2.00 ↑↑			
手足口病	0.00	0.00	5	2		クラミジア肺炎	0.00	0.00			
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.67 警報	3.67 警報	2	1		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00	0.00			

トピックス・季節情報

冬季休暇を控え、人の移動が増加することが予想されます
（年末年始に海外渡航を計画されている皆さまへ）

●海外においては、日本に存在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症があります。
●海外で注意すべき感染症に対する正しい知識と予防方法を身に付けることが大切です。
●渡航先によって感染症が異なりますので渡航前に厚生労働省ホームページ等で確認しましょう。

※予防接種の種類によっては、数回(間隔を開けて2～3回)接種しなければならないものもありますので、海外に渡航する予定がある場合には、**出発3か月以上前に**、トラベルクリニック、渡航外来等の医療機関で、**予防接種**を行うワクチンの種類と接種日程の相談をし、海外渡航に際し推奨されている予防接種の検討を行いましょう。

※海外渡航、特に開発途上国に渡航した後、少なくとも6か月の間は、渡航関連の感染症が生じる可能性があります。
渡航後に体調不良を感じたら早めに医療機関を受診し、必ず海外に渡航したことを告げましょう。

＜参考ホームページ＞
◎厚生労働省　https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html
◎厚生労働省検疫所(FORTH)　https://www.forth.go.jp/index.html

9月28日は世界狂犬病デーです

世界狂犬病デーは、ヒト及び動物における狂犬病の影響やその予防法などについて知ってもらうことを目的としています。

狂犬病とは、狂犬病ウイルスによる感染症です。人は、感染動物(主として犬)に噛まれることによって唾液からウイルスに感染し、長い潜伏期の後に発症します。発症してしまうと有効な治療法はなく、**ほぼ100%死亡**します。
現在日本での狂犬病の発生は認められていませんが、アジア、アフリカを中心に世界では年間5万人以上の死亡者が発生しています。

●狂犬病流行地域に渡航される方は、現地滞在中にむやみに動物に近づかないようにし、万が一、滞在中に犬等に咬まれた場合には、(1)すぐに傷口を石けんと水でよく洗う(2)現地医療機関を受診し、傷の手当てと狂犬病のワクチン接種を受け(3)帰国時に検疫所(健康相談室)に申し出てください。
●犬の飼い主は狂犬病予防法に基づき、(1)市町村に犬を登録(2)犬に毎年、狂犬病の予防注射を受けさせる(3)犬に鑑札と注射済票を付けることが義務づけられています。